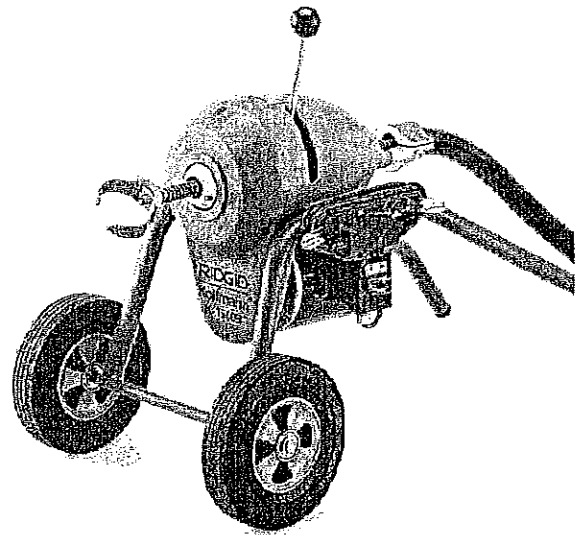


K-1500

取扱説明書

ドレンクリーナー



RIDGID 日本エマソン株式会社 リッジ事業部

〒105-0022 東京都港区海岸1-16-1 ニューピア竹芝サウスタワービル 7F

電話 03-5403-8560 FAX 03-5403-8569

日本語 <http://www.ridgid.jp>

警告

安全のため、機械の組み立て、
使用前にこの説明書を読み、
機械の使用方法及び危険
の可能性をよく理解してくだ
さい。

RIDGID

999-998-308.10
11/2009

● 特長

RIDGID K-1500排水管清掃機は50~300mmまでのパイプを掃除するのに最も一般的に使用されている機械です。

- ・強い力で迅速な清掃
- ・正逆回転の強力モーター
- ・独特のクラッチ機構で安全、確実な操作
- ・軽量、可搬式で高い作業性
- ・便利な特許スピードカップラー
- ・作業距離に応じて簡単に長さを調整できるケーブル分離方式

● 仕様

[能力]

- ・清掃管径 50~300mm
- ・清掃距離 C-11使用時 最長 61m

[使用ケーブル]

- ・標準ケーブル C-11

[モーター]

- ・115V 50/60Hz 3/4HP
- ・回転数 700rpm

[重量]

- ・本体重量 61.3kg
- ・標準付属品込み 116.1kg

● 維持

- 1.使用後クラッチジョーを清掃し給油して下さい。
- 2.外部に露出した部分(ロッカーアーム、クラッチ キャスティング、メインベアリング等)は3ヶ月毎にグリースアップして下さい。
- 3.Vベルトがゆるんでいないか定期的に点検して下さい。尚あまり強度に張りすぎると磨耗が激しくなります。
- 4.モーターには給油の必要はありません。

● 標準付属品

C-11 ケーブル	7本
A-8 ケーブル キャリア	2個
T-1 ストレート オーガー	
T-3 ファンネル オーガー	
T-6 ファンネル カイシュウ ヨウ オーガー	
T-8 グリース カッター	
T-13 ソフトウス カッター	
A-2864 3/16 アレン レンチ	
A-3 ツール ボックス	
T-50-1 シャフトウス カッター	
A-1 テブクロ	
A-12 ピンキー	
A-34-12 ガイドホース	

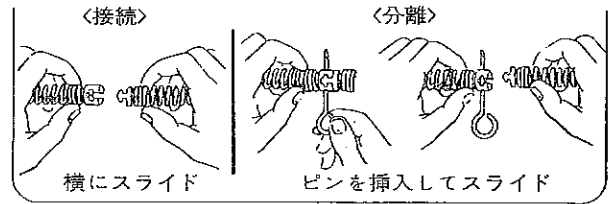
● 使用上の注意

本機はハンドルを手から離すとクラッチ・ジョーが自動的に開き、ケーブルの回転が即座に止まる安全設計ですので危険はありませんが、尚以下の点に注意して下さい。

1. まず第一に、この取扱説明書をよく読み正しい操作を身につけて下さい。
2. 突然ケーブルが回転しだすと危険ですからプラグを電源に差し込む前に本体スイッチを必ずOFFにすること。
3. 本体スイッチをONにしてモーターが完全に回りだす前にハンドルを操作すると、モーターのスターターに過重がかかりますので、必ずモーターが回りだしてからハンドルを操作して下さい。
4. モーター・スイッチを正転（FOR）から逆転（REV）又は逆転から正転に切り換える時は必ず一度モーターを完全に止めてから作動させて下さい。
5. アースを取って下さい。
6. ケーブルをつかむ時は必ず附属の専用手袋を使用して下さい。
7. ケーブルは通常右回転（FOR）でのみ使用します。左回転（REV）で長く使用しますと、ケーブルが傷みます。右回転中に何か障害物に当たって回転しなくなった時にだけ左回転を使用します。左回転させケーブル先端にショックを与え障害物から抜きとります。ケーブルに無理な力をかけすぎますと、パイプの中でもつれたり、ねじれたりしますから注意して下さい。
8. 本体後部に余っているケーブルが床の上でグルグルまわると危険ですし、床を傷つけますからガイド・ホースを必ず本体のうしろに取りつけて下さい。

● 取扱い方法

1. ケーブルの接続と分離は下記を参考にして、なれて下さい。



2. 本体を清掃するパイプの入口から30cm～60cm離れた所に設置して下さい。そして本体の後部にガイドホースを取りつけます。電源をいれる前にスイッチはOFFの位置にあるか必ず確認して下さい。
3. 最初のケーブルを本体の前部から挿入し、ケーブルが本体前部より30cm位でた所まで押しこみ、先端にツールをつけて下さい。又、ケーブルは順次、1本ずつ接続して使用し、一度に長くつないでからの作業はしないで下さい。
4. 先端にツールを着けたケーブルを、手でパイプの中に送りこみ、順次ケーブルを本体前部でつないでいきます。ケーブルは必ず附属の専用手袋で握って下さい。
5. モーターの回転は通常右回転（スイッチはFORの位置）で使用して下さい。ケーブルはモーターを回転させただけでは回転しません。クラッチ・ハンドルをしっかり押し下げますとクラッチ・ジョーがケーブルをはさみ回転させます。ゆっくり中途半端にクラッチ・ハンドルを押すとケーブルのグリップが甘くなり、クラッチ・ジョーが傷む原因となります。クラッチ・ハンドルを離すとケーブルの回転はすぐ止まりますので、オーバーランがなく、ケーブルを傷めません。これはコールマン独特の安全設計です。
6. 20cm位ずつ、ケーブルを送りこんではクラッチ・ハンドルを押し下げケーブルを回転させます。この時、ケーブルにたるみができますので、それを伸ばすように上部から押さえつけますと自然にケーブルがパイプ内にはいっていきますので、手で強弱の加減ができ、安全です。
7. 先端のツールはまず最初にストレート・オーガーを使用し、何が詰っているか又はどういう状態かを確認した後、その場に応じたツールを取りかえて清掃します。この時、困難な詰りの場合、一度に貫通させようとせず、徐々に開通させる様に作業するのがコツです。又、パイプの中に水を流しながら清掃しますと、非常に作業能率を高めることができます。30mのパイプを清掃するのに要する時間は普通1時間です。

8. 左回転 (REV) の使用上の注意は4.と7.の項をもう一度ごらん下さい。右回転から左回転への切り換えは一度完全にストップさせてから行なって下さい。左回転から右回転に切り換える時も同じです。ケーブルは右回転の時、最大のテンションに耐えるよう設計していますので左回転では決して長く使用しないで下さい。

9. ケーブルの取り出し

スイッチは右回転のままにして、ケーブルを引き上げていきますが、ケーブルが抜けてこない場合はクラッチ・ハンドルを押し、数秒間ケーブルをまわしながらショックを与え、強く引っぱって下さい。この操作をくり返すとケーブルは容易に取り出すことが出来ます。又、ケーブル自身が左巻構造の為、ケーブルのピッチを丈夫なエッジにあてて正転させてもケーブルを取り出すことができます。

10. ケーブルの取り扱い注意事項

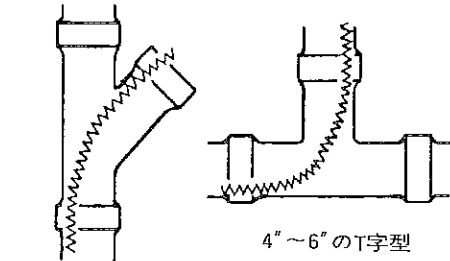
イ、ケーブルの厚さにより清掃ができるパイプ径は決まっております。正しいサイズのケーブルを選んで下さい。

ロ、先端のツールが障害物で行き止まった時、一度に貫通させようとせずに、ケーブルを押しこんだり、引いたり、少々逆回転させたり、繰り返して作業すればケーブルはほとんど傷めません。

ハ、左回転 (REV) を使い終われば忘れずにすぐ右回転に戻して下さい。

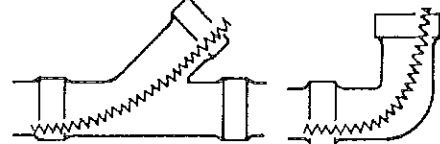
ニ、ケーブルは使用後よく布などでよごれを掃きとって屋外に雨ざらしになさらないようにして下さい。

2. 標準型1¼"ケーブルは3"~6" (75mm~ 150mm) のストレート・ライン用に主に使用されますが下図のような場合にも使用できます。



4"~6"のT字型

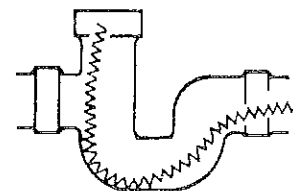
3"~6"の横入れ



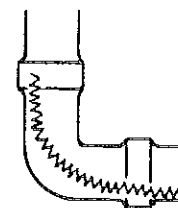
3"~6"のY字型

3"~6"のエルボー

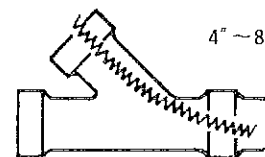
3. 強力型1¼"ケーブルは4" P-トラップ、4"ランニングトラップには使用できませんが、用途によっては標準型よりも速く強力に作業できます。4"~8" (100mm~ 200mm) のストレートライン用に主に使用されますが、次図のような場合にも使用できます。



6"~8"のランニングトラップ



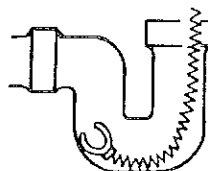
4"~8"のエルボー



4"~8"の掃き出し

● ケーブルの用途と操作例

1. 4" (100mm) P-トラップから使い始める場合はケーブルの過熱をさける為、水が流れているかどうか確認して下さい。下図のようにまずできるだけ奥まで手でケーブルを押しこんで下さい。次にトラップ入口と本体の間にケーブルが半円形になる位までケーブルを引っ張りだします。短時間ずつケーブルを回転させながら半円形になっている頂点の部分を強く手で押して下さい。

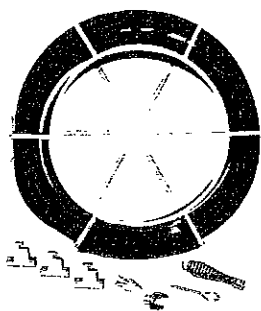
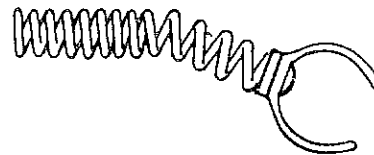


4. 本機はクラッチ・ジョーを交換すると $\frac{5}{8}$ "と $\frac{3}{8}$ "のケーブルが使用でき、 $1\frac{1}{2}$ "~4" (38mm~100mm) のパイプも清掃できます。下記の便利なケーブル・キットも別売されていますので御利用下さい。

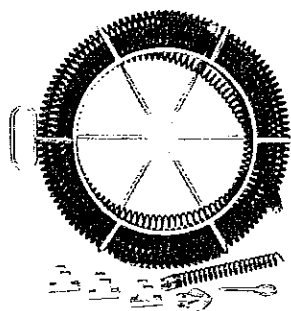
A-29...No.C-8 ($\frac{5}{8}$ ")ケーブル 6本
 13.5m。 $1\frac{1}{2}$ "~3" のパイプに使用

A-31...No.C-10 ($\frac{3}{8}$ ")ケーブル 3本
 13.5m。 2"~4" のパイプに使用。

7. 下図のようにツールの取り付け口から15~20cm後ろの所で少しまげて脂の詰っているパイプを清掃すれば効率的に作業できます。

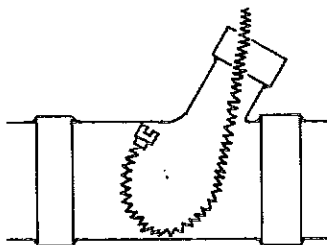


A-29ケーブル・キット

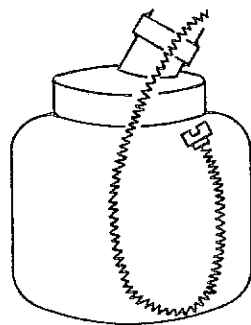


A-31ケーブル・キット

5. 作業者は挿入口から本管、又は浄化槽迄の大体の距離を前もって知っておく必要があります。本管の中に長く伸しすぎたケーブルはもつれて取り出す時、枝管につかえることがあります。もし本管が12"以上の時は3~4.5m迄、浄化槽の時は1.5m以下のケーブルの出しすぎが許容度です。



本管12"以上



浄化槽

6. 追加のケーブルを継ぎ出す前にすでに挿入されたケーブルがパイプ内にすべって全部入りこまないよう下図のように保護して下さい。この方法はくぼみのあるところとか、屋上から清掃する場合に有効です。

